



ゼロカーボンシティの 実現に向けて

地球規模で温暖化をはじめとした環境問題等が深刻化している中、環境負荷の低減や再生可能エネルギーの活用など、全世界で環境に対する意識や関心が高まっています。

地域特性を活かしたエネルギーへの転換や地域の取り組みといった、低炭素・循環型社会の推進が求められていることから、国では、2020年（令和2年）

10月に「2050年までにカーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」ことを宣言しました。

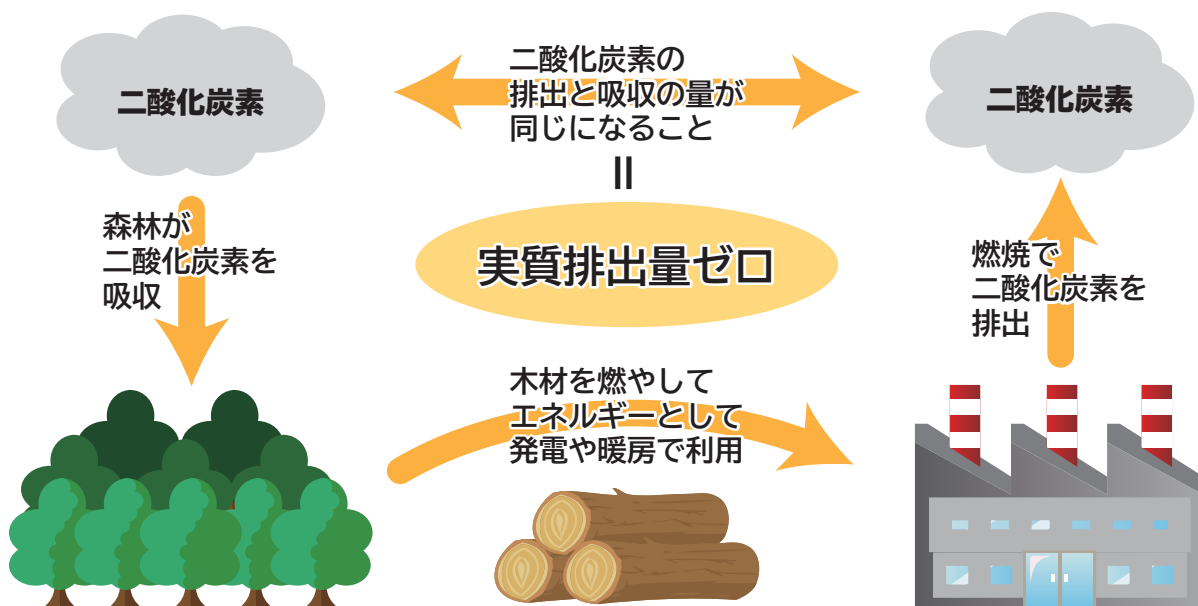
当別町でも、令和3年度町政執行方針において、2050年までに町全体のエネルギー供給を再生可能エネルギーで賄える体制を目指すことを、町長が表明しました。

ゼロカーボンシティとは

ゼロカーボンシティとは、2050年に温室効果ガスの排出量又は二酸化炭素を実質ゼロを目指す地方自治体のことです。

実質排出量ゼロとは、二酸化炭素などの温室効果ガスの人為的な発生源による排出量と、森林吸収などによる除去量が同じとなることです。

木質バイオマスによる実質排出量ゼロの例





当別町のゼロカーボンシティの取り組み

当別町では再生可能エネルギーを積極的に活用して、様々な取り組みを進めてきました。現在、力を入れているのは「木質バイオマス」を活用した取り組みです。地域に豊富に存在する「木質バイオマス」に着目して、町内で製造し、発電や暖房の燃料として活用する「エネルギーの地域循環」により、二酸化炭素排出量の削減に取り組んでいます。

令和元年度 町内の森林から木質チップを加工

町内事業者を中心に、町や森林組合など4者により、コンソーシアム「当別町木質バイオマス地域アライアンス」を設立。旧中小屋中学校に木質チップの製造拠点を整備しました。



旧中小屋中学校に集積された木材



製造された木質チップ

令和2年度 西当別小学校と西当別中学校のボイラーでエネルギーの地産地消

既存の重油ボイラーの老朽化が進んでいた西当別小学校と西当別中学校に、木質チップボイラーを導入。ボイラーには旧中小屋中学校で製造したチップを使用しており、エネルギーの地域循環の取り組みがスタートしました。



木質チップボイラー施設外観



木質チップボイラー本体

令和4年度 とうべつ学園でも木質バイオマスを活用

令和4年4月開校予定の義務教育学校「とうべつ学園」では、木質チップボイラーを導入するほか、町産木材を校舎の壁や床材などに活用します。

今後も地域資源を活用しながら、二酸化炭素排出削減や地域経済の活性化を図る取り組みを推進し、ゼロカーボンシティの実現に向けて取り組めます。



■問合せ
エネルギー推進室エネルギー推進係
(☎ 27 - 5089)